

令和7年度 第3回 教育委員会定例会 会議録（公開用）

1. 招集日時 令和7年10月6日（月） 午後1時15分
2. 招集場所 西郷村文化センター 西郷村文化センター第2研修室
3. 出席委員 勝又 千賀子
佐藤 敏巳
村田 清
鈴木 忍
4. 説明のために出席した者

教育長	秋山 充司
学校教育課長	緑川 浩
課長補佐	高内 慎介
指導主事	鈴木 英雄
施設係長	鈴木 淳一
庶務係長	角田 淳史
生涯学習課長	黒須 賢博
課長補佐	塩谷 慎介
生涯学習係長	山崎 仁宏

本委員会の書記

庶務係長 角田 淳史

5. 開会 午後1時15分

6. 議事

- 報告第16号 西郷村立小学校及び中学校通学区域等審議会委員の任命について
議案第18号 西郷村公立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について（案）
議案第19号 西郷村の望ましい教育環境の在り方について
報告第17号 9月定例議会報告について
報告第18号 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
報告第19号 準要保護児童生徒の新規認定について

7. その他

- (1) 教育委員会日程について
- (2) その他

学校教育課長 緑川

改めまして、こんにちは。

定刻ちょっと早いですが、全員おそろいになりましたので、ただいまより西郷村教育委員会第3回定例会を開会いたします。

初めに、教育長挨拶。教育長、よろしくお願ひいたします。

教育長（あいさつ）

学校教育課長 緑川

ありがとうございました。

それでは、3の議題のほうに入らせていただきます。

議題、議事の進行につきましては、教育長、どうぞよろしくお願ひいたします。

教育長

それでは、議事のほうを進めてまいります。

まず、議題に入る前に、会期をお諮りします。

本定例会は本日1日としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

教育長

異議なしと認めまして、本日1日とさせていただきます。

報告第16号 西郷村立小学校及び中学校通学区域等審議会委員の任命について

教育長

それでは、議題に入ります。

初めに、報告第16号ということで、西郷村立小学校及び中学校通学区域等審議会委員の任命についてということで報告のほうをお願いいたします。

学校教育課庶務係長 角田（報告第16号を説明）

教育長

ありがとうございます。

今、報告説明がございましたが、報告について何かご質問等あればお願いします。

[発言する者なし]

教育長

よろしいでしょうか。

報告についてご質問がなければ、次に移りたいと思います。

議案第18号 西郷村公立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則に

について（案）

教育長

続きまして、議案の第18号ということで、別冊でございますが、西郷村公立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について（案）、こちらについて提案のほうお願いします。

学校教育課庶務係長 角田（議案第18号を説明）

教育長

通学区域につきましては、継続で特認校を進めていますとの提案でございます。

こちらにつきまして、何かご意見、ご質問等あればお願いします。
よろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

教育長

特に異議がないようですので、これでお諮りしたいと思います。

議案第18号につきまして賛成の方の挙手をお願いいたします。

[賛成者挙手]

教育長

挙手全員ということで、議案第18号につきましては承認いただきました。ありがとうございます。

議案第19号 西郷村の望ましい教育環境の在り方について

教育長

続きまして、議案第19号に入ります。西郷村立学校統合再編についてです。

こちらのほう、入る前に簡単にご説明させていただきます。

令和5年に学校適正化配置検討委員会の中で、学校の統廃合が検討されました。きっかけは、議会からも提案があった西郷第一中学校の校舎の老朽化問題で、これを早く改善できないかという背景がありました。

そこで、学校の在り方を考えました。西郷第一中学校をそのまま建て直す方向で良いのか。もう一つは以前から課題だった川谷小中学校の複式学級の問題解消です。令和5年度の検討の結果、新たに校舎を建設して中学校は1校に統合してはどうかということが挙げられました。また、小学校についても複式学級の解消が必要であり、将来的な人口を考えると3校に統合した方が良いという答申を受けました。この提言を教育委員会として村長に提出し、その後村長から提言を基に具体的に検討を進めて、教育委員会からの方針が欲しいとのお話がありましたので、令和6年から令和7年にかけて検討を進めてきたところです。

まず、スタートとして、保護者と先生方のワークショップを行い、学校の在り方

や現状の問題点について意見を聞きました。また、中学校の子どもたちにもワークショップを行い、現状の課題やこれから望む学校について意見を聞きました。この資料は以前お渡ししています。

今年の8月には、この提言に沿って村民アンケートを行いました。対象は在校生と未就学児の保護者全員、そして、お子さんがいない村民の方を抽出しました。その結果もお渡ししていますが、今日改めてまとめたものをこの後、角田の方から説明させます。

なお、この調査結果は9月下旬にホームページに掲載し、11月の広報誌に要約して載せる予定です。

そういう経緯で今進んでおり、今回のアンケートについて角田の方から説明をお願いしたいと思います。

学校教育課庶務係長 角田（議案第19号を説明）

教育長（議案第19号を説明）

村田委員

反対される方が7～8%いらっしゃったとすれば、その主な、こちらで反映するような意見は。

教育長

一番出ているのは通学です。角田の方から細かいところを。

学校教育課庶務係長 角田

今日配布した報告書の反対の方の自由意見をご覧いただければと思います。

小学校の統合について「反対である」と答えた方は68名いらっしゃいました。その68名の方に理由をお聞きしたところ48名の方が回答しており、意見を分類したところ、最も多いのは通学で48名の内15名、コミュニティーが希薄になるといった心配が12名、母校がなくなるが11名、子どもや保護者への負担感が10名、いじめなどのトラブルの心配が7名、少人数の方が良いや目が届きにくいが6名、統合は安易が5名、寂しい、悲しいが5名、バスや送迎が必要が4名との理由が寄せられました。

中学校に関しては、「反対である」と答えた方は52名で理由を回答した方は42名でした。最も多いのは、1校となるため人数が多いや少人数の方が良いが15名、教員不足や目が届かないが10名、地域やコミュニティーが希薄になるが10名、いじめやトラブルの心配が6名、部活動が5名、少人数で目が届く環境が良いが6名、統合は安易が5名、寂しい、悲しいが5名、バスや送迎が必要が4名と回答されています。

複数回答で回答数を超えるが、以上でございます。

村田委員

丁寧にアンケート調査もされて、まとめて頂いてありがとうございます。

前にも話しましたが、少人数教育と規模の大きな教育のどちらが効果的かと考え

たとき、私も教育に携わってきて、例えば福祉施設の場合、小規模化する流れにあります。子どものニーズが複雑多様化しています。虐待を受けて心身が傷ついている子どもと親を失って悲しんでいる子どもが一緒に暮らそうとしても、非常に難しく、子ども同士のトラブルが増加して職員の負担が増えるという問題があります。個別教育が最も良いですが、経費や人員配置の問題からどこで妥協するかという問題があつて難しい。私も何十年やっていても分かりません。

もう一つはコストの問題です。過去のオイルショック時代には、物価上昇を乗り越えるため、施設をスリム化しました。要するに、大規模な施設を小規模化して調整を行うことで無駄なエネルギーの消費を抑える方法が取られました。さらに、大規模施設の運営には法的な制約が多く、消防法、食品衛生法や保健所などの法令に基づく管理者や研修の費用などのコストが増大します。そのため、施設の規模を拡大することが必ずしも良い結果を生むわけではなく、経費を抑えるためには全体的な分析が重要になります。ただ、一番怖いのはコミュニティーの変化です。例えば、羽太や川谷地区は西郷の水資源の地です。もし、地域を管理する住民がいなくなれば、地域が荒れて、産業廃棄物処理場などに変わってしまうと水資源が失われ、生きていけないことになると思います。そのため、地域の意見を集約し、丁寧に説明して合意形成を図っていく。今から30年、40年後は分からぬ。こんなデジタル社会なんて想像できなかった。だから、皆さんの知恵を絞っても難しいと思います。

教育長

私もどちらかというと中学校について考えていましたが、子どもたちは放課後にのんびりできる場所やみんなでわいわいできる場所を求めています。しかし、現状では学校周辺にそうした場所がなく、子どもたちは部活をした後、学校を出て帰るだけの生活が多いです。このロビーに集まる子どもたちも多く、熊倉小の子どもが結構来ています。こういったほっとする場所が欲しいとか学習環境としての図書室が身近にあって、いつでも本を借りられて、のんびり見られる場所が欲しいという声があります。さらに、支援を要する子どもたちのためにエレベーターなどの環境整備も必要であり、西二中にはスロープが設置されているが、西一中ではなく、3階建てで手狭で不自由な思いをさせていると思います。そういう現状を考えると良い建物を造ってあげたい。近くに文化センターや図書館があって、地域の方と中学校が交流できる。部活動の地域移行について、それぞれの学校ごとにばらばらに対応している状況ですが、1つであれば、子どもたちが地域の方が関わって出来るような施設が近くにあるとより活動しやすいと思います。西二中の生徒数は、12年後は150名程度の予測であり、合唱コンクールや部活動にしても自分たちだけでは活動できないなど集団活動に寂しさを感じている声もあります。そのため、西郷の子をみんなで育てようという西郷村の地域づくりの方が良いかなという思いを持ってています。

村田委員

そういう考えも出てくると思います。今日の羽太小と熊倉小を見て、少人数の羽太小の方が落ち着いて見えました。そして、いじめの認知数も羽太小はない。熊倉小は多い。個別に対応していくことを考えると、大規模化すると手の届かないところ

ろがかなり出ますので、その辺をどういう風に考えていくかです。だから、教育支援するというのが一つのアイデアだと思います。

教育長

今後、それは必要だと思います。

村田委員

あと、部活問題も一人ひとり色々なニーズを持っています。ダンスをやりたい、お茶やお華、国際交流をしたい子もいる。一人ひとりにニーズに答えられる学校の部活動はまずあり得ないし、ニーズに合った放課後活動を考えていくことは難しいでしょう。中体連もなくなる話も考えられるし、地域移行の話もあるし過渡期で難しい。働き方改革だって、今度の政権でどうなるか分からないですから。

教育長

先生の働き方改革の中で、地域、保護者、学校と役割分担をしていくことになると思いますし、問題対応にセンターで引き受けるとか分業化が進むでしょう。少人数であれば、問題も少なく済んでいいかと思います。羽太小くらいの人数であれば、非常にアットホームな学校ができますが、もう少し多い1クラス30人を超えて6学年ある米小くらいの活動になると、クラス替えができない、同じ人と6年間一緒などと問題が出てきます。現実に、それによってトラブルが起こっているのが見えてきます。羽太小は、人数が少ないのでトラブルも本当に少なく、私も良いと思いますが、今後維持できるかは分かりません。今も複式ですが、来年以降も3クラスの複式が続く状況で、村で何とか先生を採用していますが、その先生がいつまでいてくれるか分かりません。必ず2学年一緒にいるのが起こってくる。そうなると、1人の先生が5年生と6年生を受け持った場合、セカンドスクールは受けませんとか、修学旅行は6年生だけで行くとか難しく、アルバムや修学旅行の費用も一人当たり高くて大変だという問題もあります。だから、こういった問題をクリアできれば少人数でもいいと思うところはありますが、今後続けられるかに問題があるのです。

村田委員

多分、他だったら続けられない。どんどん過疎化して限界集落になってきていて、幸い西郷は中学校を維持できている。10年後を予想しても、子どもの数もそんなに際立って減っていない。西郷はそういうところが難しいですね。

教育長

そういう意味で、私も協議しながらとしました。多分、6～7年は完全複式にならない状態が続くと思います。ただ、川谷小中を見ていると、先生は毎日2学年の授業準備をするわけですから本当に大変です。

村田委員

本当に授業を考えると大変です。先生方は一生懸命やってらっしゃるのは分かり

ます。ドワンゴ学園とか、学校によっては、学校に出なくともオンラインでやれるところも出てきているわけでしょう。

教育長

この間、通学路委員会を実施した際に、川谷地区の区長さんから自分の家の周りにはもう子どもが誰もいない。学校との関りが全くない。早く手を打って欲しいというご意見を頂いたのですが、人様々お考えをお持ちだと思います。私自身も悩むところです。あの羽太小の状況を見ていると、今の雰囲気を保てれば、あのままで行きたいと思いますが、今後の状況を見たときに、これが複式になってしまい、あるいは村で教員を採用することがままならなくなる。今、財政課もぎりぎりで人件費がかかっていますが、何とか村長にお願いして教員を6名採用させて頂いているのは西郷でなければできないことだと思います。私も、決して少ないから駄目だというわけではなくて、羽太小のような規模であればちょうど良いという思いはあります、これから維持できるのかという点。また、プールの改修、体育館の建て替えや校舎の設備の更新など教育水準を維持していく経費を捻出できるかが頭の痛いところと感じています。我々が考える立場ではないかもしれません、そこまで考えていいかないと教育水準を維持することも必要なので、村長には教育にウエートをかけてもらいたいし、教育委員会で検討していかなければならないことです。これから地域に話していく中で、委員の皆さんも色々思いはありますし、少人数だから駄目だということではなく、将来を見越してどうなるか、先生の配置の問題も難しくなることを含めて検討していると話していくしかないと思います。

村田委員

議員さんが白河に64名が通っているとおっしゃっていたと、教育長のお話にありました。

教育長

人数はともかく、現在、向こうに通っている子どもがいるでしょうと。西郷の子は西郷で学ばせるのは必要なんじやないかというご意見を頂きました。

村田委員

私も前から考えていたことで、白河二中と白河二小に西郷の子が60人通っている。それから、不登校、ひきこもりが六十数人ですね。2つ合わせて120人、難しいことですが、一人ひとり丁寧に見ていけば、1つの学校ができる感じがします。でも、最終的にどうすればいいんだと言われれば、地元の方がこういう子どもたちを育てて、環境をこうしたいというものを受け止めていくのが一番。30年後どうなるか誰も分からないうから、地元の方が決める。

先ほど言った福祉施設で2歳から20歳までを預かっていた経験から、本当に丁寧に優しく育てた方が良い場合が多いですが、一方で厳しい社会に出ていくのに駄目だとか、耐性がついていないし、社会に出てからダウンしちゃうよという意見もあります。

佐藤委員

それは、僕は乳幼児をやってきて思います。乳幼児期にどれだけぶつかり合いとか、対人関係で自分とは違った人間と関わってくるかによって、失敗が許されるうちに人を殴ることも必要かもしれません、少人数で穏やかな生活ができるかもしれないし、ある意味押さえつけられているかもしれない。人との関わり合いというのは、ある程度、子どもたち自分で考えて結論を出すという人数じゃないと。

村田委員

そういう意見を言う人もいますが、私は反対です。虐待を受けたような人たちをたくさん受け止めました。例えば、思春期になってフラッシュバックし、非行や犯罪行為に走ってしまう。思春期に愛情を受けないで、愛されないで育って福祉施設と刑務所の往復する方もいます。乳幼児期から愛された経験のない子どもは、社会に出てつまずきやすい。支援者が良くて、社会に出て成功している人もいますが、みんなが頑張れるわけではないので、愛される時期に愛されないと、どこかでつまずきやすい。

佐藤委員

大人数だからできないとなると、僕も何も言えなくなりますが、非認知的なことを人数が多くても乳幼児の先生方はやれるだけのことをやるでしょうし、家庭との連携もあるでしょう。羽太小の校長先生も言っていた非認知的な、地域の愛情というのでしょうか、そういうものをどこかで作り上げていくしかない気がします。一概に良い悪いとか言える立場ではありませんが、教育委員会としてこの2～3年間方向性をまとめてきたわけですから、統合されたとしても小規模的なものを作り上げていけるかもしれない。だから、支援センターの充実など環境を作り上げていくのであれば、統合されても子どもたちの育ちはあると思います。

ただ、地域の保護者の方がどう考えるかとなると、何とも言えないところもありますが、教育という子どもたち側に立って考えてきた中に解決できることがたくさんある気がします。村田委員と一緒に、私も羽太小の子どもたちの雰囲気をみて言いましたが、人数がどんどん減って最終的には統合だと言っているけれども、何かそういう分割した形のスクールが、何年後になるか分かりませんが、増えていく気がしました。

教育長

私も流れを見していくと、今後小集団的な活動を大事にしていく方向に向かうと思っています。ご存じかと思いますが、先進的に進めている熊倉小では、先生を1人増やし、学級をグループに分けて習熟度に応じた活動をしてしたり、今後は中学校でもインターネット、パソコン等を使って少人数的な活動をやったりと、極端に言えば個別に、弾力的に対応できるような、例えば、教室数を多くする、相談室や教育センター室を置く、それぞれ小グループで活動できる場所を提供するなど、個別最適な状況で、できるだけそういう活動に対応できる学校づくりをしていく方が良いと思います。

村田委員

羽太小は良かったが、一つの悩みは上位者への個別最適化が難しい。個別最適化という課題は同じで、大規模になればなるほど見えない子どもが相当出てくる。その配慮、フォローを考えているように相談支援センターなり対応を同時に整備していかないと。

教育長

私はそれをやらないと、そういう形の学校づくりをしないと意味がないと思っています。

佐藤委員

熊倉小の5年生の3クラスに分けている、あれ。

教育長

あれはいいです。

佐藤委員

齋藤先生の専門の多分。見ていて子どもたちの考えているという。だから、多くても何かそういうものがあれば理想的かなと思います。

教育長

これから弾力的な教育課程になってきますね。各学校で時間割や教育内容を改善して良い状況になってきているので、今後はそうなると思います。

村田委員

ごめんなさい。関連してもう一つ。福祉の例で言うと、大規模施設を小規模化していく中で小規模化できなかったところがあった。100人いるような老人ホーム。こういったコロニーがヨーロッパもすごくあった。コロニーをやめてだんだん小規模化していました。どうやって大きい施設を改善したかというと、ユニットケア式というものを出したわけです。例えば100人を10人ずつの生活単位、ユニットに分けた。そういう方向も学校に考えられるかもしれません。だから、35人学級といったら多いので、その辺の改善もどうなるかということですね。

教育長

もっと今後は進んでいくのではないかと思います。

村田委員

すみません、私ばかり。

教育長

いいえ、先取りしてもいいのかなと、逆に。逆に西郷村の教育としてそういうものを売りにしていく。あるいは、小学校も幾つかの教室に分けて、専科方式を取つ

ていく。

村田委員

そういうふうにして移住者を呼ぶというか。

教育長

そういう方がアピール度があるかなという、ただまとめるだけではなくて。
すみません、勝又先生。

勝又委員

今お話があったとおりだと思いますが、今回の学校統合で保護者の方が一番心配しているのは、人数的には通学距離が多いですが、実は少人数じゃなくなってしまうことへの不安が根強いのではないかとすごく思っています。特認校として川谷小中学校としてわざわざ選んで通わせている保護者の思いは、特別なものがあるのでないかとすごく思います。やはり、支援センターの充実がすごく大事なことで、本当に丁寧にやっていくことだと思います。

表に表してしまうと、少人数についての意見は少ないですが、これはもっと重い内容だと感じるので、丁寧にしていかなければならぬと思います。地域全体の思いを一緒にするのは難しいと思いますが、この資料を見ると、当初令和3年の頃には学校施設を長く維持していく計画だったのに、その後大きく方向転換して、一気に統合の話に進んでいったように感じてしまいます。そうなると、少人数を好んで選んでいた保護者の方にとっては、いきなり統合といわれてもとなって大ごと感じると思います。だからこそ、ここは本当に丁寧にみんなが同じ方向を見て、100%みんなが納得してというのは難しいと思いますが、魅力ある施設の構築に向けて進んでいかなければならない。学校は、大きいか小さいかで問題が解決するわけじゃない。いじめや心の問題は、学校の大小に関係なく起こり得ます。大きいから良い、小さいから解決できるものではないと思いますので、一人も取り残さないという思いを持って、今後の魅力ある施設づくりについて、大きく考えていくべきだと思っています。

教育長

おっしゃるとおり、理由があつて川谷小中学校を選んでいる子が多いです。7割が選んで通学しており、大きな学校になじまない、人間関係が上手くいかない、支援級より通常級で行きたいためなど様々です。それで救われて非常に頑張っていますが、対応する先生が非常に素晴らしいのです。トップクラスの先生がいて、声もなく、根を上げずにやっていますが、入学式をご覧になった時、座っていられない子もいたと思いますが、少人数でもそういったところの苦労をされています。文科省の新聞記事を読むと、そういうものを受け止める教育支援センター、適応指導教室、フリー教室もカリキュラムを組んで授業の一環として認めてくれる方向に動いており、フリースクールだから居るだけではなくて、ちゃんと学習しながら手立てを講じて次のところに持っていくような支援センターにしていくことが呼ばれている。そういうことを説明しないと、地域の方や通学している方も納得しな

いだろうし、そうすることが今後進める上で大事だと思っています。

佐藤委員

先ほど教育長がおっしゃった川谷区長さんが早く統合をというような話、僕ら川谷小中学校の保護者の方とずっと以前から話合いに参加してきて、変わりましたよね。もしかしたら、統合した中に川谷小中学校のような支援的な学校があれば、今の子どもたちが救われることも可能ですよね。だから、先ほどのお話を聞いていて地域の方たちも随分意識が変わってきていたのかなと感じました。

教育長

その件よく聞いておりますので、私も進めるのが本当に慎重なんです。簡単に言えないので、ここまで来るのも非常に勇気が要る。どんな答えが返ってくるだろうと、アンケートを取るのが、一番勇気が要りました。やはり、意識的にそれも必要か、仕方ないかとの声もありますが、どちらかといえば早くした方が良いという声も多いです。

もう一つは、何も言えずに、そっとこちらに来ている家庭もあります。つまり、そんなことを言ったら居られなくなるから気遣いながら通っている子もいるということです。そのことを伝えましたが、現実はだんだん自分たちの子どもというよりも、地域のことを考えたりすれば、新たな地域づくり、コミュニティづくりをあの学校施設でできないかという思いがあるように感じました。これから地域に行くときには、その後どうするかの方向性を村側として持たないと納得してくれないと村長に少しお話をしました。どういうコミュニティづくりや地域づくりをしていくのかということを合わせて言っていかないと、ただ統合だけでは地域の方は納得しないと思います。

佐藤委員

あとはフリースクールとか。例えば、川谷の施設を利用して民間の教育施設も同時に進行で呼ぶとかやっても良いと思います。民間でも随分今やっていますよね。学校は公立という感覚が強くなりますが、これからは民間に任せるところは任せるという考え方でも良い気がします。

教育長

地域の方は、どうなるかすごく心配なところで、民間に任せてとんでもない状況になっても困ることもあるので、一概に民間でと言えませんが、学校でも集まる子どもによって地域がおかしくなることも無いとは限らないので、十分気を付けなければならない。鈴木さん、苦しいところでしょうけど、教育委員の立場として何か。

鈴木委員

なかなか難しい問題ですが、やはり根気強く事細かに説明をしていく。それが大事なのかなと。それで分かってもらえる日が来るのかなと思います。

教育長

私の中学校も小学校も今は無いですが、統合問題は50年やりました。やはり、すぐ納得できないし、さっき言ったとおり、50年先のことは誰も分からない。でも今になって、まあしょうがないかなと思ったし、別になくても何とかやっているなどというのはあります、当時は本当に大変でした。50年間かかりました。私としては、無くなつて寂しいです。母校がないというのは寂しい。その地域の思いもよく分かりますので、協議をして納得のいく、地域の方がそれならばという思いにならなければ駄目だと思っています。そういう意味合いで書かせていただきました。

佐藤委員

もう1～2年、こういう方向で行こうと教育長がまとめた形で進めていくということですよね。

教育長

そうですね。今考えているのは、総合教育会議を開いて村長と一度話し合いの場を設ける。その後、地域の方に行きたい。それぞれの小学校区で保護者や地域の方にお集まりいただき、ご説明して皆さんのご意見を頂きながら方向性を詰めていきたいと思っています。先のことを見通すのは難しいですが、私の苦しい言葉として書いたのは、完全複式というのは見ていてかわいそうで、先生方もつらいです。

少し余談ですが、教職員の残業手当の代わりに一律3%の調整額を出す給特法があって、文科大臣がこれを上げる方向で話を進めています。でも、その裏に何があるかというと、支援学級を担任する先生の手当を減らそうとしています。そして担任手当というものを作るのです。つまり、複式学級の先生は2学年持っていても担任手当は1つなので不公平感や格差が出るでしょう。表向きは調整手当を上げていく、担任手当をつくると言っていますが、裏では財政的な問題で支援学級の手当を削るんです。これはひどい話です。こういう裏側を理解しないと、働き方改革だと安易に思いがちなので、しっかり見極める必要があります。

村田委員

もう一つ。義務教育学校について少し情報が欲しいです。複式学級の意見も分かりますが、義務教育学校では、要するに縦割りでやった方が、学習効果という視点ではなく、下の子の面倒見たり、上の子にお話をしたりと、そういう複式化したの方が人間形成の視点から良いということでやっている所もあるようですね。

教育長

義務教育学校というのは、要するに小中一貫校です。小学校卒業や中学校入学といった区切りがなく、9年間を通して教育を行う学校です。先生は小中学校両方の免許を持っている必要があります。

9年間ずっと行きますので、中一ギャップがなく、学習を継続的に進められるという良さがあります。ただ、問題は、公立なので先生が3～4年で異動しますが、新しい先生が学校の教育方針に馴染めるか。また、両方の免許を持つ先生を集めるのも大変です。

一方、マイナス点と言えば子どもに変化がない。いじめがあった場合、9年間同じ人間関係が続く。支配されれば、ずっと続き逃げ場がない。次にモチベーションのきっかけがない。例えば、小学校卒業をきっかけに中学校で頑張るぞというモチベーションや非認知能力を伸ばすきっかけづくりがなかなかできないところもある。そして、リーダーが育たない。小学校6年生になると今度は自分たちがとなるが、大体中学校3年生がやっているのでほとんど育たない。

最後に、中学校の悪い面を真似する。良い状態ならいいのですが、例えば男女交際や喫煙などが見えてしまい、悪さも覚えてしまう欠点もある。ただ、鮫川村が導入を検討していますが、学校も子どもも少ない状況では、小中一緒にする方が財政的に助かります。十分なスタッフを揃えられるかが課題ですが。

村田委員

学校によっては6・3でなくて、5・2・2でやっていく。

教育長

そこは校長の考え方や手腕などで様々です。メリット、デメリットは両方あります。デメリットを克服する方法、手立てを持たないと良いことばかり言っても納得してくれないと思います。

3時まで少し休憩を取らせていただきます。

(休憩)

教育長

続けていきますので、何かありましたらお願ひいたします。

よろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

教育長

それでは、これは確定ではありませんが、これを基に方針として総合教育会議を開き、地域懇談を進めていくということで、この議案第19号につきまして、皆さんにお諮りしたいと思います。

西郷村立学校統合再編方針（案）について賛成の方は挙手をお願いいたします。

[賛成者挙手]

教育長

ありがとうございます。

賛成多数ということで決まりました。

報告第17号 9月定例議会報告について

教育長

続きまして、報告第17号に入りたいと思います。

9月の定例会議会報告について、事務局よりお願ひします。
緑川課長、お願ひします。

学校教育課長 緑川（報告第17号を説明）

教育長

何かご質問等あれば。

村田委員

総務部とか部に次長が。

学校教育課長 緑川

いいえ、次長は教育委員会だけです。部長の下に課長となります。教育委員会は次長があつて、課長が2人。村長部局は村長、副村長、部長が3人、課長となり、課長補佐、専門主査、係長がなくなつて主任になります。

村田委員

学校教育課と子ども支援課の関係は縦割りでいく。

学校教育課長 緑川

縦割りですが、今のような状況だと思います。福祉課と学校教育課は色々と問題を抱えているお子さんがおりますので、スクールソーシャルワーカーが入りながらうまく共有しております。学校などから児童相談所にお願いや連絡するのですが、その部分も福祉課と情報共有して、今の状況を常に把握しています。

教育長

できれば教育支援センターの中に福祉も入れる予定で設計しています。できれば弁護士も入れたい。

村田委員

スクールロイヤーを置いているところありますよね。

教育長

そうですね。村としての方がいらっしゃいますので共有していきたい。

学校教育課長 緑川

何かあるときには、弁護士さんに相談することはあるので。

勝又委員

学校適正化でお話があった教育支援センターについては、組織化はされない。

学校教育課長 緑川

今回、学校教育課の組織に室として2～3名の人員配置で進めると、村長は考えています。

勝又委員

教育委員会として子ども家庭センターや福祉課との連携がされていくので、児童館の問題とか併せてということになりますか。

教育長

そうですね。学校教育関係のものは課内での対応が多いので、福祉課1人が入って共有していく形を取りたいと思います。今度は建物の中にあるので、より近くなると思います。村長のOKは頂いていますが、財政的な確認が取れれば、教育委員会で支援センター設置要綱の提案をさせて頂きたいと思います。

村田委員

子ども支援課と教育委員会は同じフロアになりますか。

教育長

2階と1階です。業務上、頻度面から見れば福祉課が下でないと。それでも建物1つなので、非常にありがとうございます。

学校教育課庶務係長 角田

関連しまして、教育支援センターも含めて学校教育課と文化スポーツ課など西郷村教育委員会事務局組織規則の改正について準備を進め、教育委員会でご提示したいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

学校教育課長 緑川

1月の定例会、2月、3月の臨時会。議会の補正予算もあるので、どちらかで提案したいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

教育長

よろしいでしょうか。ほかによろしいでしょうか。

お願いします。村田委員。

村田委員

国庫支出金の補正について、減額1億は交付金が減ったことですか。

学校教育課庶務係長 角田

国庫支出金の内訳で、社会资本整備総合交付金が今回補正で1億630万3,000円、村全体として国庫支出金でマイナス1億となっています。

学校教育課課長補佐 高内

恐らく、道路関係の計画を変更して、補助金を減額したと推測します。

教育長

ほかによろしいでしょうか。

[発言する者なし]

教育長

ありがとうございます。

それでは、報告の第17号については以上といたします。

報告第18号

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の公表について

教育長

続きまして、報告第18号 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の公表についてということで、よろしいですか。お願いします。

学校教育課指導主事 鈴木 (報告第18号を説明)

教育長

分析結果をまとめていただきました。何かお気づきの点等ありましたらお願いします。

村田委員

今さらですが、そのデータには特別支援学級の子どもは。

学校教育課指導主事 鈴木

情緒の子どもは入っております。

村田委員

情緒の子どもは入る、知的の子どもは。

学校教育課指導主事 鈴木

知的は入らない。

村田委員

全国で統一された規準ですね。

学校教育課指導主事 鈴木

西郷は入れましたが、学校や地域によって様々です。

教育長

そうです。一概に点数だけを見てどうこうと判断して欲しくない。背景を理解して見てもらえるなら良いですが、理解せず数字だけ見ていくと話が一人歩きしてしまうので、西郷村は同程度などの示し方をさせてもらっています。どうしても数字だけが先行していて、課題を見つけてどう取り組むかということを国でも大事にしている所なので、点数が高い低いだけで、うちの学校の子どもたちは低いとなると、子どもたちに影響する心配もあります。国も出し方について注意するよう言っています。だから、課題を解決していく方法や取り組みをどうしているかという伝え方がいかないと難しいと思います。ありがとうございます。

お願いします。

佐藤委員

感想ですが、先ほどの授業改善について、今日学校訪問させていただいた限りでは、本当に先生たちが分かりやすい授業されていたと感じました。だから、何か自分で考えて問題を解決していく。そういう意味では、本当に先生たち、研修会も随分あるみたいですし、頑張っていられると思いましたので、これからも引き続きやっていただけたらまた違ってくると思います。

教育長

個人的には、先生自身が授業をやっていて楽しくなるような指導法をしっかりと身につけていくことが、子どもたちに良い影響を与えて、良くなっていくと思います。だから、先生をいかに研修させて、やる気にさせるかという環境づくりが大事なので、我々にできることはそうした予算を組んであげることで、熊倉小では、今回少し良い傾向が出ましたね。

やはり、校長先生が手を挙げてやらせて欲しいとか、この先生を研修に行かせたい、先生方が行きたいと意欲が大切です。これだけ予算があるから使ってねというぐらいしないといけないと思っています。プラスに動いて良かったと思いました。

村田委員

印象として、我々数年前の授業参観した時よりは、本当に電子黒板、タブレットも使っているし、あと、A L Tの活用も進んでいるというような感じを受けました。

教育長

ちょっといい感じになってきて、先生方の雰囲気がいいです。ありがとうございます。

学校教育課指導主事 鈴木

敏巳委員からお話があったように、授業の楽しさや基礎力もありますが、今年度特に注目されているのは、児童生徒の質問紙と結果を併せて見ることです。授業が楽しい、分かると感じている子どもは学力が伸びているというデータが出ています。そういうところを改善しながら授業に取り組んで結果につなげていく。また、こういう生活をしていくと学習が身につくよということを押さえてくださいとお話し

てあります。楽しい授業をやっていれば、子どもたちも楽しいし、やりないな、分かりたいなと良い方向に結果が出てきているのではないかと学校に伝えていきます。ありがとうございます。

教育長

では、よろしいでしょうか。
じゃ、次に移りたいと思います。

報告第19号 準要保護児童生徒の新規認定について

教育長

報告第19号、ここからは個人情報ということもありますので、議事を非公開したいと思いますが、ご異議ございませんか。
〔「はい」と呼ぶ者あり〕

教育長

よろしくお願ひします。
では、議事の非公開に賛成の方は挙手をお願いいたします。
〔賛成者挙手〕

教育長

ありがとうございました。
それでは、報告第19号の議事につきましては非公開としたいと思います。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の
規定により公開しない)

終了 午後 4時00分

令和 7年10月 6日